令和８年度自己評価まとめ

今年度は子どもへのかかわり方について自己評価した。

まずはかかわり方の基本的な姿勢について職員にアンケートを実施した。

以下の項目のどれが自分のかかわり方の基本かを集計した。

① 教導（回答をトップダウンで与える）　②誘導（解決策を提案する）

③省察促し（子どもに問いかけて考えさせる）

④足場かけ（子どもが考えられるように整理する）

⑤見守り（必要ならば足場かけをする）　⑥お任せ（自由に任せる）

集計した結果、①と⑥はほぼなく、②～⑤に回答がほぼ均等に分散し、複数回答もかなりあった。状況により対応が変わるとのコメントもあり、職員は②～⑤を使い分けていることがわかった。子どもが主体的に活動できるように様子を見ながら対応を考えていることが確認できた。

次に以下の３点についてエピソードを集めた。

①子どもに寄り添った対応　②子どもの成長を認める

② 子どもが自分で考え解決した。

以下に集まったエピソードの主だったものを記載する。

① 子どもに寄り添った対応

・０歳児が食後、エプロンを自分で片付けられるように見守っていたが、なかなかしまおうとしなかった。食事コーナーから戻ることへの気持ちの切り替えが難しいのかと思い、「先に戻っているからしまっておいてね」と伝えて離れた。その後もまだエプロンを持ったままこちらを見ていたため、「エプロンをしまう場所わかった？」と声をかけて一緒に場所を確認すると、自分でエプロンをしまった。

・まだ遊びたくて片付けへの切り替えが難しい１歳児に、最後に遊びたいものを事前に決めてもらうようにすると、きりが良いところで子ども自身で片付けができた。

・４歳児三人がままごとをしていたところに他の子が「入れて」と言ってきたが、「今は三人で遊びたいからダメ」と言われた。そこで「〇〇ちゃんは入りたいんだね、だけど今は三人で遊びたいみたい。入ってよくなったら〇〇ちゃんに言ってあげてね」と両方に伝えた。しばらくすると四人で遊びだした。

② 子どもの成長を認める

・４歳児の友達が登り棒を登れるようになったので、自分もやりたいと登り棒に来てしばらくいたが、「やっぱりやめる」と行ってしまった。後日また登り棒に来て、１秒間登り棒につかまることができたので、「すごい、頑張ったね」と伝えた。

③ 子どもが自分で考え解決した

・同じ場所を通りたい２歳児が二人いて、二人とも困っていたので、「どっちかがこっちを通ったらどう？」と提案すると、少し考えて一人の子が「こっちにする」と答えた。

・２歳児がパズルで遊んでいて手を洗う時間になったが、子どもがパズルをやり切りたがっていたので、さっとやってしまうか、パズルをとっておいて手を洗いに行くか話すと、少し考えてパズルをとっておく方を選んだ。

・３歳児数人がセミのぬけがらを１つのかごに集めた後、どうしようかとなったが、声をかけずに見守っていると、「みんなで分け合ったらいいと思う」という意見が出た。

今後の保育に生かせるエピソードが集まったが、一方で気になるエピソードもあり、どういう対応が良いか職員で意見交換した。その一つを以下に記載する。

４歳児 A、B がプラレールで遊んでいたが、そばで C が半べそをかいていたのでどうしたのか聞くと、「入れてって言ったら、だめよって言われた」と答えた。「なぜ入れてあげないの？」と聞くと、A は「C はいつも入れてって言うとだめよって言うんだ。B はいつも優しいから入れてあげたんだ。」と答えた。すると C は「いつもじゃないもん。いいよって言う方が多いもん」と A に言った。

・実際の対応

「いいよって言われるとうれしいよね」と３人に言うと A は C を入れてあげた。

・他の職員の意見

C には「優しくするから入れてと言ったらどう？」とアドバイスする。

C には「だめと言われると悲しいね。ともだちにやさしくしたら入れてもらえるね」と話す。

A に「いつもだめと言われているかもしれないけれども、今は C が同じ気持ちみたいだからどうする？」と尋ねる。

意見交換をすることにより違った切り口の対応方法が出され、今後の保育の幅を広げることにつなげられた。